

令和4年度 丹波篠山黒豆情報

第3号 令和4年9月15日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

※丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(令和4年9月15日丹波篠山市定点調査結果より)

1株当たり着莢数 ※大きさが1cm以上の莢を計数 (莢)	
令和4年	100.3
平年(過去10カ年平均)	88.4
平年比	114%
令和3年(参考)	86.9

- 1株当たりの着莢数は100.3で、平年(過去10カ年平均)比114%と平年を上回っています。
- 開花期以降、高温で推移したものの、周期的な降雨があったことから極端な土壌水分の低下が見られませんでした。なお、一部、過繁茂傾向のほ場も見られますが、全体的に着莢が良い傾向です。

【病虫害】(令和4年9月15日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害	カメムシ類	ハスモンヨトウ	サヤムシガ	アブラムシ類	ハダニ類
	株率(%)	虫数/株	虫数/株	被害株率(%)	頭/小葉	頭/小葉
令和4年	6.33	0.02	0.16	0.00	0.08	0.00
平年(過去10カ年平均)	4.86	0.02	0.86	8.84	0.27	0.57
平年比	130%	84%	19%	0%	29%	0%

※令和4年、平年値は小数点第3位を四捨五入して表示

- 立枯性病害(茎疫病、黒根腐病)の発生が平年に比べてやや多く見られました。ほ場間差が大きく、多発生圃場では16%程度の発病株率となっています。
- チョウ目害虫の発生はわずかに見られる程度で、平年を大きく下回っています。
- カメムシ類、フタスジヒメハムシなど莢を加害する害虫の発生も平年に比べて少ない状況です。

【今後の対策】

1 害虫対策

- ・ハスモンヨトウの幼虫による食害を受けて白く見える葉（白変葉）は除去し、早めの防除を実施してください。
- ・カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、発生に注意し、薬剤防除を徹底しましょう。

2 立枯性病害（茎疫病、黒根腐病）対策

- ・ほ場の排水対策を徹底し、立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

3 着莢・粒肥大期の水分管理等

- ・子実が肥大する 10 月下旬までは水管理が重要となります。晴天が続き、土壌が乾いた場合は、適宜灌水を行いましょ。う。
- ・今年度は、着莢が良好な傾向であることから、特に、葉色が薄い場合は、9月中旬頃までに液肥等の葉面散布（例：尿素溶液 濃度 0.5～1%、散布量 100～150L/10a）を行うことで粒肥大の向上が期待できます。
- ・湿害や立枯性病害の発生を防止するため、長雨やゲリラ豪雨、台風等により畝間に水が溜まっている場合は、排水対策（排水口を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐなど）に努めましょ。う。

4 台風対策

- ・台風 14 号の接近にともなう風雨により、ほ場の冠水や株の倒伏、茎葉の傷みなどが発生する恐れがあります。
- ・排水口を開き、排水溝との接続を確実にを行うなど排水対策とともに、倒伏防止のための支柱やマイカー線等の点検を行いましょ。う。
- ・枝折れした傷口や株の泥の付着した部分から病原菌が侵入しやすくなります。台風通過後、風雨で茎葉がもまれた場合は、斑点細菌病等の予防のため、殺菌剤の散布を行いましょ。う。
- ・不用意にほ場に入ると枝折れを助長するため、注意が必要です。
- ・倒伏した株は無理に起こすと折れてしまうため、無理に起こすことはやめましょ。う。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

【参考：気象データ（丹波篠山市消防本部データ）】

